

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53001001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	脳と行動[P3A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ノウトコウドウ		
英文授業科目名	Brain and Behavior		
担当教員名	斎藤 祐見子		
担当教員名 (フリガナ)	サイトウ ユミコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総L101
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード			
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第3パッケージ：生命・人間への接近 最近、脳に関して似非科学が横行する傾向がある。ここでは、科学的に論証可能な「脳科学」を知ることで、真の科学する態度を身につけ、理解を深めることを目指す。		
授業の目標・概要等	人間精神を構成する知・情・意を知能・情動・意欲と置き換えて、それらを生み出す脳の働きと行動、そして密接に関連する分子群を総合科学的視点から考察する。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2-5回 脳・神経細胞の構造と機能 第6回 脳研究の方法論 第7回 中間試験 第8回 試験解説・快楽・意欲と脳 第9-10回 薬物濫用と脳 第11-12回 学習記憶の脳内プロセス 第13回 心の病と脳 第14回 まとめと重要ポイントの整理 第15回 期末試験		
教科書・参考書等	テキストは用いず、随時配布するプリントとパワーポイントを用いて講義を進める。参考書については近年刊行された総説類など適宜指示する。		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイント		
予習・復習への アドバイス	この講義は、各段階を理解しないと次の段階に進めない。各回復習し完全に理解し、次の講義を予習することが望ましい。用語や概念の理解が難しい場合は、教官に積極的に質問すること。 第1回 これから何を学ぼうとするかを理解する 第2-5回 脳についての基本的な構成要素を理解し、神経情報の本質とは何かを学ぶ。 第6回 脳研究の様々な方法論について理解する 第7回 理解度確認のために中間試験を行う。 第8回 これまでの基礎知識を活用して快楽の仕組みを理解する 第9-10回 覚せい剤やアルコールの脳における作用を理解する 第11-12回 知のプロセスを理解する 第13回 第6回-12回の知識を総合して、うつ病や統合失調症について理解を深める 第14回 講義全体のまとめを行うのでよく復習しておくこと。 第15回 全ての講義のまとめとして記述試験を行う。		
履修上の注意 受講条件等	* 講義中にランダムに指名して理解度を問う。 * 生物学の知識が非常に心もとない場合、高校生物学教科書を購入し自習すること。		
成績評価の基準等	中間試験（理解度によっては2-3回）＋期末試験(80%) 随時配布するアンケート・講義に対する態度(20%) 以上により総合的に判断する。期末試験後、追試や救済レポートは一切行わない。		
メッセージ	受講期間中は理解するための最善の努力をすること。		

その他	ハイレベルでありながら、わかりやすい講義を心がけています。わからないことがあれば遠慮なく質問してください。15回の講義終了後には「本当の脳科学はこんなにも奥深い」「バラエティ番組のあの話は本当は根拠がものすごく曖昧なのか」などを実感できると思います。 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53002001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	実存の探究[P3B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	ジツゾンノタンキュウ		
英文授業科目名	An Inquiry into the Human Existence		
担当教員名	近藤 武敏		
担当教員名 (フリガナ)	コンドウ タケトシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3 時限, 4 時限	講義室	総K304
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	実存、身体、他者、ことば、調和		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第3パッケージ：生命・人間への接近 人間とは何か、という問題を《哲学的な》仕方考えます。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	知覚、身体、言語、思考、他者、理性といったテーマを通して、私たちが実際に生きていながらも気づきたい人間のあり様（実存）を、《体験の記述を踏まえ、諸科学の成果をも参照しながら、筋道を立てた思考によって探究する》という仕方で、明るみにだし、現代を生きうる新しいノ別の人間についての理解を作り上げる。		
授業計画	(1)オリエンテーション / 哲学とは何か -1 (2)哲学とは何か -2：世界を前にしての驚き (3)哲学とは何か -3：根源への問い、根源からの問い (4)哲学とは何か -4：理性 (5)現代の知において制度化した人間像 -1：哲学の人間像 (6)現代の知において制度化した人間像 -2：科学の人間像 (7)現代の知において制度化した人間像 -3：分裂する人間像 (8)知覚 -1：身体の再発見 (9)知覚 -2：脳と身体 (10)知覚 -3：私の身体としての世界 (11)知覚 -4：世界の鏡としての私の身体 (12)言語 -1：言葉、思考、身体 (13)言語 -2：言葉と世界 (14)言語 -3：他者との共存と身体 (15)言語 -4：理性、あるいは言葉を通じての共存		
教科書・参考書等	毎回、講義概要を配布します。関連する書物などは、講義中あるいは講義概要で紹介し、授業の理解を深めるためには、そのようなテキストを参考にしてください。		
授業で使用する メディア・機器等	なし		
予習・復習への アドバイス	講義概要にあらかじめ目を通して、各回の講義内容とその内容の講義全体での位置を把握しておいてください。講義が終わって理解できなかった点は、コメント用紙に書いて質問するか、WEB上に設けた質問用のBBS（授業で紹介し）を利用して質問してください。		
履修上の注意 受講条件等	講義のほかに、出席票を兼ねたコメント用紙に、講義についての感想、質問、反論などを書いてもらい、次回の講義で、それらの中のいくつかに応えます。したがって受講生は講義する者と直接対話するような積極的な態度で授業に臨むことが要求されます。		
成績評価の基準等	学期末提出のレポート(80%)の出来具合に、受講態度(20%)を加味して評価します。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】		
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53004001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	社会的なもの人間[P3B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	シャカイテキナモノトニンゲン		
英文授業科目名	Society and Human Being		
担当教員名	材木 和雄		
担当教員名 (フリガナ)	ザイキ カズオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K307
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心で、板書を多用します。専用ノートの持参を勧めます。初回からフルタイムで授業をします。出席も取ります。第1回目の授業に必ず出席してください。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	自己理解、人間の尊厳、価値観、核家族		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	「家族とは何か」という問いを通して人間性の理解に迫りたいと思います。		
授業の目標・概要等	家族は私たちにとってもっとも身近な「社会的なもの」です。しかし、改めて家族とは何かと問うといろいろな答えが出てくると思います。これは、現代社会では家族が大きく変化しつつあり、そのありかたが根底から揺らいでいるためです。この授業では、主として社会学の分野で家族はどのように研究されてきたかを振り返り、今後家族はどのような現象としてとらえるべきかを考えたいと思います。		
授業計画	<p>以下のようなトピックスを取り上げます。</p> <p>第01回 受講上の注意事項の説明  第02回 進化論と家族研究  第03回 家族発展段階説  第04回 モーガンの家族起源論  第05回 モーガンの家族起源論  第06回 人類学的家族研究の登場  第07回 マリノウスキーの研究  第08回 マリノウスキーの研究  第09回 社会学的父親の概念  第10回 マードックの核家族論  第11回 マードックの核家族論  第12回 核家族の普遍性に対する批判  第13回 現代家族の揺らぎ  第14回 現代家族の揺らぎ  第15回 まとめ</p>		
教科書・参考書等	教科書はありません。必要に応じてプリントを配布します。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, 映像 (ビデオ)		
予習・復習への アドバイス	第1回専用のノートを用意し、出席してください 第2回継続的に出席してください。 第3回以下同じ。		
履修上の注意 受講条件等	第1回目の授業日には必ず出席すること。授業では大量の板書をします。ルーズリーフではなく、「専用の大学ノート」を用意することをお勧めします。また授業を途中で休むと内容がわからなくなる恐れがあるので継続的に出席するようにしてください。なお私語・お遊び・筆談・携帯電話の閲覧などで授業に集中力を欠く場合には、名前を伺って試験の結果から減点します。		
成績評価の基準等	期末試験 (90%) の結果に授業期間中のレポートないし平常点(10%)を加味し判定します。		
メッセージ	初回からフルタイムで授業をします。出席も取ります。第1回目の授業に必ず出席してください。		
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所 (もみじTop内) : <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】		

学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  
回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  
なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53005001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	心と適応[P3B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	ココロトテキオウ		
英文授業科目名	Human and Adaptation		
担当教員名	杉浦 義典		
担当教員名 (フリガナ)	スギウラ ヨシノリ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	総K303
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心 映像多用 積極的な読書を推奨
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	キーワード：人間、心、価値、健康		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中で この授業の位置づけ	生命・人間への接近 「心」の「健康」について基礎知識をえるとともに、多面的な視角をえられることを目的とする。		
学習の成果	人の主観と客観、適応の多面性を理解する。 それによって、人間や、現代社会を理解する柔軟な視座を獲得する。		
授業の目標・概要等	<p>精神的健康について基礎知識をえるとともに、これが適応、これが不適応と決め付けられない柔軟性を会得する。そのためには、何回かのひねりを加えたい。</p> <p>様々な現象について映像教材を用いてしたしんでいただいた上で「適応って何」というテーマについて徹底して問いを投げてみよう。</p> <p>心理学の基礎的な知識をより活きた形で体感できるようにビデオ教材を多用します。「理論と実践」という言葉に魅力を感じる方はどうぞ。</p>		
授業計画	<p>オリエンテーション</p> <p>心の健康 1 まずパニック障害を知ろう 心の健康 2 その治療法を学ぼう 心の健康 3 次に強迫性障害について知ろう 心の健康 4 その治療法を学ぼう 心の健康 5 うつ病についても知ろう ひねり 1 がんばるからかえって不安になる場合をかんがえよう ひねり 2 ネガティブだといけないのか考えよう 心の健康 5 統合失調症について知ろう 心の健康 6 その治療法を学ぼう ひねり 3 苦しいことをなくそうとしない発想を学ぼう ひねり 4 あえて内面を強調しないことを学ぼう ひねり 5 ただ見つめる力をつけよう まとめ 1 統合 まとめ 2 学習方のアドバイス</p> <p>成績評価の基準等 を参照</p> <p>・心理学の基礎的な知識を生きた形で体感できるようにビデオ教材を多用します。実験的な研究がどのように応用できるのかが理解できるでしょう。「理論と実践」という言葉に魅力を感じる方はどうぞ。 ・各回の授業予定は目安です。授業の目的から逸脱しない範囲で、皆さんの理解度や興味に応じて（あるいは学問の進歩を踏まえて）柔軟にすすめたいと思います。</p>		
教科書・参考書等	<p>杉浦義典・丹野義彦 (2008). パーソナリティと臨床の心理学：次元モデルによる統合 培風館 基本こちらを用いる予定ですが、品切れの場合は、下記を用いたいと思います。その場合は授業初回到連絡をします。 丹野義彦 (編) (2002). 認知行動療法の臨床ワークショップ - サルコフスキスとバーチウッドの面接技法 金子書房</p>		
授業で使用する メディア・機器等	テキスト, 映像 (ビデオ/PC/その他画像資料)		

<p>予習・復習への アドバイス</p>	<p>・復習が重要です。毎回、良くノートを見直してください。教科書に加えて以下の参考文献を読むことを推奨します。授業でもういくつか紹介すると思います。</p> <p>杉浦義典 (2009). アナログ研究の方法 新曜社</p> <p>丹野義彦 (編) (2002). 認知行動療法の臨床ワークショップ - サルコフスキスとパーチウツドの面接技法 金子書房</p> <p>坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典 (編) 不安障害の臨床心理学 東京大学出版会</p> <p>杉浦義典 (2003). ストレス対処から見た心配の認知的メカニズム 風間書房</p> <p>杉浦知子 (2007). ストレスを低減する認知的スキルの研究 風間書房</p> <p>クラーク, D. M., エーラーズ, A. 丹野義彦 (編・監訳) (2008). 対人恐怖とPTSDへの認知行動療法: ワークショップで身につける治療技法 星和書店</p> <p>三宮真智子 (編) (2008). メタ認知: 学習力を支える高次認知機能 北大路書房</p>
<p>履修上の注意 受講条件等</p>	<p>・私語, 居眠り, 無断退室は一切許容しません。これが確実に守れる人のみ履修してください。違反の場合は, 大幅な減点とします。</p> <p>・授業はきちんと出席して聴くためのものですので, 欠席したり, 話を聞いていなかったことに対するフォローは一切行いません。例えば, 休んだ回の内容を尋ねに来たり, 評価上の救済措置をもとめたり, といったことは厳に慎むこと。</p> <p>・病欠/ 忌引/ 天災/ 事故はしかるべき手続きをへて可能な助力を行います (課外活動や「用事」は配慮をする理由には一切ありません)。</p> <p>・初回のガイダンスには必ず出席し, 授業の内容やすすめかたを十分理解のうえ, 履修してください。</p>
<p>成績評価の基準等</p>	<p>・出席数が不足の場合はそもそも受験資格がありません。教室にいても寝ているなどは出席とみなしません。</p> <p>・試験あるいはレポートにより評価します。内容は授業内容を理解していることを確認する問題と読書課題 (参考図書から1冊) からなります。</p> <p>・試験も学習の機会と捉えます。試験や成績評価に関しては, 授業の中で入念に説明を行い, その場で質問も受け付けます。試験後にもフィードバックを行い, 今後の学習の役にたつようにしたいと思います (それが可能なように試験日程 (あるいはレポート提出日) を設定する予定です)。</p> <p>・成績評価に関する説明と陳情や交渉は全く別のものです。不当な要求は許容しません。</p> <p>・病欠/ 忌引/ 天災/ 事故で受験ができなかった場合はしかるべき手続きをへて可能な助力を行います (詳細は授業の中で説明します)。部活や「用事」や「確認不足」で受験できなかったり, 成績が思わしくないことを理由とした救済措置 (再試験など) は一切行いません。</p> <p>・その他, 欠席や説明を聞いていなかったために生じた結果に対するフォローは一切ありません (毎回出席している, という前提なので, たとえ抜き打ちテストでもこまることはないはず, という考え方)。</p>
<p>メッセージ</p>	<p>・授業の終わりに質問を受ける時間を設けます。積極的に活かしてください。担当者にとっても励みになります。</p>
<p>その他</p>	<p>【パッケージ別科目共通資料掲載場所 (もみじTop内) : <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a>】</p>
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し, 改善につなげていきます。 なお, 受講者が著しく少ない場合などに, アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53006001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	脳のはたらき(受講場所:東広島キャンパス)[P3B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	ノウノハタラキ		
英文授業科目名	Brain Science		
担当教員名	栗栖 薫		
担当教員名 (フリガナ)	クリス カオル		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	双方向	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限,8時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義形式(講義中心;ハンドアウト、ビデオ、パワーポイントなどを駆使して総合的に行う。マックとマイクロソフトに対応するプロジェクターであればよい。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	意識、認識、記憶、創造		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第3パッケージ:生命・人間への接近		
学習の成果	将来医療関係に進まなくても、基本的に知っておく重要なことを理解しておけば、これからのそれぞれの専門領域において、多いに役に立つと思います。これは受講者先輩からの感想でもあります。積極的に授業に参加されることにより、更に興味を湧いてくると思います。		
授業の目標・概要等	人間の脳について、その正常構造・機能・代表的疾患の病態・治療について学び、更に脳死や脳の可塑性についても理解を深めることを目標とする。将来医療関係に進まなくても、脳についての基本事項を理解しておくことの重要性を強調したい。		
授業計画	<p>第1回(4月11日)オリエンテーション、ブラックボックスから神経ネットワークへ</p> <p>第2回(4月18日)電気的神経活動の基本ー興奮と抑制ー</p> <p>第3回(4月25日)脳内物質と神経・精神活動</p> <p>第4回(5月2日)頭蓋骨の外から脳を写し出す</p> <p>第5回(5月9日)外界の認識ー視覚の不思議ー</p> <p>第6回(5月16日)外界の認識ー聴覚、嗅覚、味覚の不思議ー</p> <p>第7回(5月23日)内的世界の認識ー悩む脳、感じる脳ー</p> <p>第8回(5月30日)脳の血管の病気と治療</p> <p>第9回(6月6日)脳循環代謝の基礎と臨床</p> <p>第10回(6月13日)脳死とは?</p> <p>第11回(6月20日)中枢神経は再生する!</p> <p>第12回(6月27日)蘇る脳と神経機能!</p> <p>第13回(7月4日)脳活動の新しい表現!</p> <p>第14回(7月11日)自習</p> <p>第15回(7月18日)自習</p> <p>試験はしません。レポートで評価します。</p> <p>レポート作成上の注意、感想文の提出方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13回の授業の中から3回を選んで下さい。(ジャンルに拘る必要はありません。)</li> <li>それぞれについて1回の授業の内容をA4 1枚分にまとめて下さい。</li> <li>A4縦位置、横書きで、上方を3cm空けて下さい。</li> <li>それぞれに、学生番号、学部・学科・専攻、氏名を、上に記載して下さい。</li> <li>図、表などをいれてもかまいません。</li> <li>感想を同様にA4 1枚に記載して下さい。</li> <li>表紙にも、学生番号、学部・学科・専攻、氏名を記載して下さい。</li> <li>表紙1枚、レポート3枚、感想1枚(計5枚)の順に重ね、左肩をホッチキスにて留めて下さい。</li> <li>締め切りは、2014年7月25日(金)午後5時、提出は、総合科学部修学支援部の専用ボックスです。</li> <li>出席回数を受講登録確定後60%以上ある学生を評価の対象にします。</li> </ol> <p>以上</p>		
教科書・参考書等	講義形式(講義中心;ハンドアウト、ビデオ、パワーポイントなどを駆使して総合的に行う。マックとマイクロソフトに対応するプロジェクターであればよい。		



授業で使用するメディア・機器等	テキスト，配付資料，音声教材，映像（ビデオ/PC/その他画像資料）
予習・復習へのアドバイス	第1回～第13回 予習は特に要りません。プリントなどを多いに活用して復習して下さい。 第14回、第15回 レポート作成に利用して下さい。
履修上の注意 受講条件等	登録が確定して以降、60%以上の出席がある学生が評価の対象になります。注意して下さい。1-2回は余裕を持って出席して下さい。
成績評価の基準等	上記13回の授業の中から自分にとって印象深かった3つを選んで内容をレポートにまとめ提出する。また、授業全体の感想も提出する。授業の登録が確定してから、出欠を取る。その出席率が60%を超えるものが評価の対象となる。
メッセージ	脳に興味がある学生は、医療関係のみならず受講して下さい。毎回、広島大学大学院医歯薬保健学研究科で教鞭をとっている教員が分かり易く解説します。オムニバス形式の楽しさ、おもしろさも味わって下さい。積極的な参加を大いに望みます。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53006002	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	脳のはたらき(受講場所：霞キャンパス)[P3B,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	ノウノハタラキ		
英文授業科目名	Brain Science		
担当教員名	栗栖 薫		
担当教員名 (フリガナ)	クリス カオル		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	双方向	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 7時限, 8時限	講義室	208講義室
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義形式(講義中心);ハンドアウト、ビデオ、パワーポイントなどを駆使して総合的に行う。マックとマイクロソフトに対応するプロジェクターであればよい。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	意識、認識、記憶、創造		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第3パッケージ:生命・人間への接近		
学習の成果	将来医療関係に進まなくても、基本的に知っておく重要なことを理解しておけば、これからのそれぞれの専門領域において、多いに役に立つと思います。これは受講者先輩からの感想でもあります。積極的に授業に参加されることにより、更に興味が湧いてくると思います。		
授業の目標・概要等	人間の脳について、その正常構造・機能・代表的疾患の病態・治療について学び、更に脳死や脳の可塑性についても理解を深めることを目標とする。将来医療関係に進まなくても、脳についての基本事項を理解しておくことの重要性を強調したい。		
授業計画	<p>第1回(4月11日)オリエンテーション、ブラックボックスから神経ネットワークへ</p> <p>第2回(4月18日)電気的神経活動の基本ー興奮と抑制ー</p> <p>第3回(4月25日)脳内物質と神経・精神活動</p> <p>第4回(5月2日)頭蓋骨の外から脳を写し出す</p> <p>第5回(5月9日)外界の認識ー視覚の不思議ー</p> <p>第6回(5月16日)外界の認識ー聴覚、嗅覚、味覚の不思議ー</p> <p>第7回(5月23日)内的世界の認識ー悩む脳、感じる脳ー</p> <p>第8回(5月30日)脳の血管の病気と治療</p> <p>第9回(6月6日)脳循環代謝の基礎と臨床</p> <p>第10回(6月13日)脳死とは?</p> <p>第11回(6月20日)中枢神経は再生する!</p> <p>第12回(6月27日)蘇る脳と神経機能!</p> <p>第13回(7月4日)脳活動の新しい表現!</p> <p>第14回(7月11日)自習</p> <p>第15回(7月18日)自習</p> <p>試験はしません。レポートで評価します。</p> <p>レポート作成上の注意、感想文の提出方法: 1.13回の授業の中から3回を選んで下さい。(ジャンルに拘る必要はありません。) 2.それぞれについて1回の授業の内容をA4 1枚分にまとめて下さい。</p>		

<p>授業計画</p>	<p>3.A4縦位置、横書きで、上方を3cm空けて下さい。  4.それぞれに、学生番号、学部・学科・専攻、氏名を、上に記載して下さい。  5.図、表などをいれてもかまいません。  6.感想を同様にA4 1枚に記載して下さい。  7.表紙にも、学生番号、学部・学科・専攻、氏名を記載して下さい。  8.表紙1枚、レポート3枚、感想1枚(計5枚)の順に重ね、左肩をホッチキスにて留めて下さい。  9.締め切りは、2014年7月25日(金)午後5時、提出は、総合科学部修学支援部の専用ボックスです。  10.出席回数が受講登録確定後60%以上ある学生を評価の対象にします。</p> <p>以上</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>講義形式(講義中心:ハンドアウト、ビデオ、パワーポイントなどを駆使して総合的に行う。マックとマイクロソフトに対応するプロジェクターであればよい。</p>
<p>授業で使用するメディア・機器等</p>	<p>配付資料, プロジェクター(ビデオ/PC/その他画像資料)</p>
<p>予習・復習へのアドバイス</p>	<p>第1回-第13回 予習は特に要りません。プリントなどを多めに活用して復習して下さい。  第14回、第15回 レポート作成に利用して下さい。</p>
<p>履修上の注意 受講条件等</p>	<p>登録が確定して以降、60%以上の出席がある学生が評価の対象になります。注意して下さい。1-2回は余裕を持って出席して下さい。</p>
<p>成績評価の基準等</p>	<p>上記13回の授業の中から自分にとって印象深かった3つを選んで内容をレポートにまとめ提出する。また、授業全体の感想も提出する。授業の登録が確定してから、出欠を取る。その出席率が60%を越えるものが評価の対象となる。</p>
<p>メッセージ</p>	<p>脳に興味がある学生は、医療関係のみならず受講して下さい。毎回、大学院医歯薬学総合研究科で教鞭をとっている教員が分かり易く解説します。オムニバス形式の楽しさ、おもしろさも味わって下さい。積極的な参加を大いに望みます。</p>
<p>その他</p>	<p>【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内): <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a>】</p>
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。  回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。  なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53007001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	人間と健康[P3B,PN3]		
授業科目名 (フリガナ)	ニンゲントケンコウ		
英文授業科目名	Man and Health		
担当教員名	山崎 昌廣		
担当教員名 (フリガナ)	ヤマサキ マサヒロ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	総K108
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心(パワーポイント使用)
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	スポーツ, 運動, 生活習慣, 肥満, ストレス		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	パッケージ名:人間と文化 視角:自然の視角		
学習の成果	人間が文化的な生活を送っていく上で、最も重要なことがらの一つは「健康」状態を保つことである。「健康」がどのように維持され、そして改善し得るかをこの講義を通して理解する。		
授業の目標・概要等	本講義では、健康な生活を送るうえで重要であると考えられる身近な要因について、理解を深めることを目標とする。特に、健康と運動との関係を中心に講義を行う。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生体リズムと健康</p> <p>第3回 睡眠と健康</p> <p>第4回 睡眠と健康</p> <p>第5回 肥満による健康障害</p> <p>第6回 白色脂肪細胞と褐色脂肪細胞</p> <p>第7回 栄養と運動</p> <p>第8回 食塩と健康</p> <p>第9回 血液と健康</p> <p>第10回 有酸素運動と健康</p> <p>第11回 無酸素運動と健康</p> <p>第12回 運動処方 1</p> <p>第13回 運動処方 2</p> <p>第14回 健康寿命を延ばす(男女の寿命の比較)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>生体リズム, 肥満, 栄養および運動というまとまった講義内容の中から, 各受講者は1~2の課題についてレポートを提出する。</p>		
教科書・参考書等	講義にはパワーポイントを用いる。パワーポイントで使用する図は講義ごとにプリントして配布する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, パワーポイント		
予習・復習への アドバイス	第1回-第15回 予習は特に必要ない。図を中心としたプリントを配布するので, その図と授業中に筆記したノートと照らし合わせながら復習する。		
履修上の注意 受講条件等	なし		
成績評価の基準等	レポート(10%)および期末テスト(90%)により行なう。		
メッセージ			
その他	<p>【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】</p> <p>【パッケージ別科目共通資料掲載場所(もみじTop内): <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a>】</p>		
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し, 改善につなげていきます。</p> <p>なお, 受講者が著しく少ない場合などに, アンケートを実施しないときがあります。</p>			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53009001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	遺伝子の世界[P3A,PN8]		
授業科目名 (フリガナ)	イデンシノセカイ		
英文授業科目名	Genomic World		
担当教員名	日下部 眞一		
担当教員名 (フリガナ)	クサカベ シンイチ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K303
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	本当は議論中心の講義に行きたいのですが、学生諸君からの発言がなかなかできません。 読んで考えて議論できる講義にしていくのを理想としています。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	科学技術、自然と人間、生命、遺伝子操作、DNA		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	パッケージ名:科学技術と人間 視角:自然の視角		
学習の成果	遺伝子に関する研究ニュースは、テレビ、新聞等で日常的になってきている。そのような出来事がわたしたちの生活にどのように関わっているのか、判断できるような基礎知識を習得する。		
授業の目標・概要等	ヒトは生物であるが故に、遺伝と遺伝子についての法則からまねがれることはできない。ここに、自然科学としての遺伝学と、ヒトの精神的、社会的存在としての倫理的側面のかかわりができてくる。本講義では、「遺伝学」から「遺伝子の科学」へという研究の流れを踏まえて、ひろく、「科学と人間と社会」という視点を持って展開していきたい。		
授業計画	<p>第1回 遺伝とは？</p> <p>第2回 染色体は遺伝情報を担う</p> <p>第3回 現代の遺伝子像</p> <p>第4回 メンデルとダーウィンが考えたこと</p> <p>第5回 突然変異とは？</p> <p>第6回 ヒトの遺伝(1) ヒトの突然変異</p> <p>第7回 ヒトの遺伝(2) 突然変異の起源</p> <p>第8回 ヒトの遺伝(3) 染色体異常</p> <p>第9回 分子遺伝学の誕生</p> <p>第10回 DNAの性質と遺伝子の特性</p> <p>第11回 DNAからタンパク質へ(1)</p> <p>第12回 DNAからタンパク質へ(2)</p> <p>第13回 遺伝子操作とわたしたちの生活</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>その時々生命科学に関わる社会問題などについて文章を書く習慣をつけてもらう。</p> <p>その時々生命科学に関わる社会問題を講義に盛り込んで行きたいので授業計画とは異なった感じを抱く事があるでしょうが遺伝についての基礎知識は順追って伝えて行きたいと計画しています。</p>		
教科書・参考書等	ワトソン「DNA」(講談社ブルーバックス上・下)、中込「ヒトの遺伝」(岩波新書)、クロー「遺伝学概説」(培風館)など		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, ビデオ		
予習・復習への アドバイス	<p>第1回 生物の基本的性質を復習すること</p> <p>第2回</p> <p>第3回 遺伝子が生物が生活する上で重要な働きを行っていることを理解しておくこと</p> <p>第4回</p> <p>第5回 遺伝子が生命情報の出発点になっていることを理解し、世代を超えて受け継がれていくことを理解する</p> <p>第6回</p> <p>第7回 突然変異はどんな生物にもおこり、ヒトにとっては遺伝病、先天異常の原因ともなることを理解すること</p> <p>第8回</p> <p>第9回 ほかの科学研究の発展に刺激を受けて、遺伝の研究が実体論的研究に進展して分子遺伝学の誕生を見るに至った歴史的展開を理解すること</p> <p>第10回</p>		

予習・復習への アドバイス	第11回 今日わたしたちの生活に遺伝子研究の様々な成果が実用化されていることを理解すること 第12回 第13回 第14回 第15回
履修上の注意 受講条件等	生物学の基礎知識が不十分である学生は、高校時の教科書や、生物学資料集を座右において生物学を復習しながら講義に参加してほしい。
成績評価の基準等	小作文の提出と期末試験による
メッセージ	生命科学技術の倫理的基礎を考察できる基礎力を養ってほしい。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。          回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。          なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53010001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	人の生と死をめぐる法と社会[P3A,PN1]		
授業科目名 (フリガナ)	ヒトノセイトシラメグルホウトシャカイ		
英文授業科目名	Legal and Social Approaches Regarding Life and Death		
担当教員名	横藤田 誠		
担当教員名 (フリガナ)	ヨコフジタ マコト		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総L102
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	生死、人間、社会、生命の尊厳、自己決定		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	パッケージ名:生命・人間への接近 生命・人間の尊厳が最も問われるのが「生まれる」「死ぬ」場面である。医療技術の進歩と価値観の多様化によって、生死の局面で様々な難問が社会に突き付けられている。この授業では、それらの問題に対する法的対応を把握したうえで、自分の問題として考えていく。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	本講義では、人の生と死をめぐる問題（生殖補助医療、人工妊娠中絶、重度障害新生児の治療停止、安楽死、尊厳死、脳死と臓器移植、自殺など）に法がいかに対応しているか（あるいはすべきか）について考える。「生命の尊厳」は絶対的で例外はないのだろうか。「個人の尊厳」は家族による決定を排除するものだろうか。決断の本当の結末を知らないのに「自己決定」に任せるだけでいいのだろうか。社会は成員に「生きていてほしい」と願うことは許されないのだろうか。これらの問題と格闘した後、私たちは生命の愛おしさを少しだけでも感じることができるだろうか。		
授業計画	<p>第1回 「生まれること」「死ぬこと」と法</p> <p>第2回 生殖の自由と人工生殖</p> <p>第3回 人工妊娠中絶と女性の自己決定権</p> <p>第4回 wrongful birth訴訟（生まれてこなかったほうがよかった？）</p> <p>第5回 重度障害新生児の治療停止</p> <p>第6回 ヒト・クローン技術規制をめぐる法と倫理</p> <p>第7回 安楽死の思想と歴史</p> <p>第8回 安楽死をめぐる法律・裁判</p> <p>第9回 尊厳死法制定の是非</p> <p>第10回 末期医療とホスピス</p> <p>第11回 脳死・臓器移植問題の論点</p> <p>第12回 臓器移植法の過去・現在・未来</p> <p>第13回 自殺をめぐる法律问题</p> <p>第14回 死刑をめぐる法と社会</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>ほぼ毎回、講義の内容に関するコメント・ペーパーを書いてもらうとともに、最後に、自身が選択したテーマについてレポートの提出を求める。</p>		
教科書・参考書等	参考書：『21世紀の教養5 知の根源を問う』培風館、2008年、葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子『新・いのちの法と倫理』法律文化社、2009年；大谷實『新しいのちの法律学』悠々社、2011年。 授業中、その他の参考文献を随時紹介する。 講義中心。毎回レジュメを配布する。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、映像（テーマに関係するビデオ・DVDを数回視聴する）		
予習・復習への アドバイス	<p>第1回 新しいのちの法律学（上記。以下法律学）第1章、第7章</p> <p>第2回 新・いのちの法と倫理（上記。以下法と倫理）第1章、法律学第3章</p> <p>第3回 法と倫理第3章、法律学第2章</p> <p>第4回 『医事法判例百選』（有斐閣、2006年）64事件（PM病事件）</p> <p>第5回 佐藤秀峰『ブラックジャックによるしく』3・4巻（講談社）</p> <p>第6回 法と倫理第2章</p> <p>第7回 法と倫理第5章、法律学第5章</p> <p>第8回 法と倫理第5章、法律学第5章</p> <p>第9回 法と倫理第5章、法律学第6章</p> <p>第10回 法と倫理第4章、法律学第6章</p> <p>第11回 法と倫理第6章、法律学第7・8章</p>		

予習・復習への アドバイス	第12回 法と倫理第6章，法律学第7・8章 第13回 法律学第4章 第14回 森達也『死刑 人は人を殺せる。でも人は，人を救いたいとも思う』（朝日出版社，2008年） 第15回
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	コメント・ペーパーの提出回数・内容（40％）と最終レポート（60％）の内容によって評価する。
メッセージ	
その他	【受講希望者が250人を超えたときは受講者抽選を行う可能性があります。】 【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。          回答に対しては教員からコメントを入力し，改善につなげていきます。          なお，受講者が著しく少ない場合などに，アンケートを実施しないときがあります。</p>	



年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53011001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	日本文学からみた人間性[P3A,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	ニホンブンガクカラミタニンゲンセイ		
英文授業科目名	Human nature in view of Japanese literature		
担当教員名	樫原 修		
担当教員名 (フリガナ)	カシハラ オサム		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	金 5 時限, 6 時限	講義室	総K209
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	心、自己理解、実存、文学、世界へのまなざし		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ	第3パッケージ:生命・人間への接近 生命とは何か、また生命の中で心という独自の特性を持っている人間とは何かについて探求するこのパッケージにおいて、日本の作家が、どのような自己理解から「人間」や「世界」の洞察に至るかを説くこの授業は、文学的アプローチからそれに迫ろうとするものである。		
学習の成果	文学特有のもの見方、表現の仕方を知り、世界や自己に関する認識を開いていく一助とする。		
授業の目標・概要等	第二次世界大戦以後の日本文学の中からいくつかの作品を取り上げ、それぞれの作家がどのような自己理解から「人間」や「世界」の洞察に至るかを検討し、人間の本性について考察する。あわせて、彼らがなぜ「文学」という方法を必要としたかを考えることによって、文学特有のもの見方、世界のとらえ方、表現の仕方を知り、我々自身が世界や自己に関する認識を開いていく一助とする。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 大岡昇平 - 俘虜体験と文学の問題</p> <p>第3回 「野火」を読む(前半)</p> <p>第4回 「野火」を読む(後半)</p> <p>第5回 「野火」に関する総合的考察</p> <p>第6回 三島由紀夫について</p> <p>第7回 「金閣寺」を読む(前半)</p> <p>第8回 「金閣寺」を読む(後半)</p> <p>第9回 「金閣寺」の意図と、意図を超えるもの</p> <p>第10回 江藤淳『成熟と喪失』の主題と方法</p> <p>第11回 安岡章太郎「海辺の光景」を読む(前半)</p> <p>第12回 安岡章太郎「海辺の光景」を読む(後半)</p> <p>第13回 小島信夫「抱擁家族」を読む(前半)</p> <p>第14回 小島信夫「抱擁家族」を読む(後半)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>最終回に定期試験を実施する。</p> <p>授業中に講義内容に関する質問や感想、簡単な問いへの解答などを求めることがある。</p>		
教科書・参考書等	<p>講義形式(講義中心;板書多用)</p> <p>参考書;上領達之他編『人間理解のコモンセンス』(培風館)</p> <p>三好行雄『作品論の試み』(筑摩書房)</p> <p>江藤淳『成熟と喪失-「母」の崩壊-』(講談社文芸文庫)</p> <p>他に適宜プリントを配布するほか、読むべき本を指示する。</p>		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料		
予習・復習への アドバイス	<p>第1回 『人間理解のコモンセンス』の樫原執筆の章を読む。</p> <p>第2回 同上</p> <p>第3回 「野火」を読んでおく。</p> <p>第4回 同上</p> <p>第5回 三好行雄の「野火」論を読む。(『作品論の試み』所収)</p> <p>第6回 「金閣寺」を読み始める。</p> <p>第7回 「金閣寺」を読み進める。</p> <p>第8回 「金閣寺」を読了する。</p> <p>第9回 三好行雄の「金閣寺」論を読む。(『作品論の試み』所収)</p>		

予習・復習への アドバイス	第10回 『成熟と喪失』をできるかぎり読む。 第11回 「海辺の光景」を読んでおく。 第12回 江藤淳の「海辺の光景」論を読む。（『成熟と喪失』所収） 第13回 「抱擁家族」を読んでおく。 第14回 江藤淳の「抱擁家族」論を読む。（『成熟と喪失』所収） 第15回 全体を振り返り、復習を行う。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	質問・感想等の提出30%程度及び定期試験70%程度により評価する。
メッセージ	本来なら講義で取り上げる小説を全て教科書に指定すべきのだが、最近の学生諸君の実状から考えると非現実的なので、あえて指定しないこととした。しかし、いずれも文庫本等で手軽に入手できるものであるし、コースリザーブでもある程度の冊数を用意するので、全作品読破を目指してほしい。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。</p> <p>回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。</p> <p>なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53012001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	適応の生理[P3A,PN2]		
授業科目名 (フリガナ)	テキオウノセイリ		
英文授業科目名	Adaptation Physiology		
担当教員名	古川 康雄		
担当教員名 (フリガナ)	フルカワ ヤスオ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1時限, 2時限	講義室	総L201
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	生理学、自然環境		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果			
授業の目標・概要等	砂漠や北極圏のような過酷な環境で暮している人がいることなどからも想像されるように、人は様々な自然環境のもとで生きていくことができる。一方、人の生存をゆるさない自然環境も確かに存在する。本講義では、人の循環系や呼吸系の生理学に関する基礎知識を習得した後で、様々な環境が人体におよぼす影響を生理学的視点から考察する。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2-3回 循環系の基礎 第4、5回 呼吸器系の基礎 第6回 まとめ/小テスト 第7、8回 圧力環境と生理 第9、10回 温度環境と生理 第11回 まとめ/小テスト 第12、13回 人の身体能力と生理 第14回 まとめ/小テスト 期末試験		
教科書・参考書等	授業形式は講義中心で必要に応じてプリントを配布する。人の生理学に関する基礎知識を得るためには、看護学を学ぶ人が使う解剖生理の教科書が適当であるので、興味がある人は自分にあったものを購入されるとよい。		
授業で使用する メディア・機器等	配付資料、映像（ビデオ/PC/その他画像資料）		
予習・復習への アドバイス	第1回 ガイダンスなので予習復習の必要なし 第2-5,7-10,12,13回 配布資料などにより復習すること 第6,11,14回 配布資料、授業ノートにより復習してテストに臨むこと。また、小テストで解答できなかった点については配布資料などにより再確認しておくこと 期末試験 配布資料、授業ノート、小テストを復習してテストに臨むこと。		
履修上の注意 受講条件等	配布されたプリントや推奨されたテキストなどによって講義内容を復習することが必須である。高等学校レベルの科学知識がある程度必要であるので、本講義を受講する間に自習により補うこと。		
成績評価の基準等	小テストと期末試験の結果から総合的に判定する。講義、および小テストの日程はもみじ掲示板に掲載する。		
メッセージ			
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】		
学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。			

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53014001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	社会福祉と貧困[P3B,PN4]		
授業科目名 (フリガナ)	シャカイフクシトヒンコン		
英文授業科目名	Poverty and Social Policies		
担当教員名	佐々木 宏		
担当教員名 (フリガナ)	ササキ ヒロシ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 3時限,4時限	講義室	総K306
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義形式は、30分から60分程度の映像と講義です。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	ホームレス、低賃金・不安定雇用、失業、貧困、人間らしい生活、尊厳		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中でこの授業の位置づけ	この授業科目は、現代日本社会において貧困や社会福祉制度が、如何に大きく人のいのちと尊厳に影響を与えているかを学んでいただくことを目的にしています。これが、この授業が<第3パッケージ：生命・人間への接近>に所属している理由です。		
学習の成果			
授業の目標・概要等	この授業のねらいは、日本の貧困問題について「知る」「考える」ことです。とりわけ「知る」ことを重視していますので、まずは、貧困問題をめぐる様々な現実を映像資料をつかって提示します。それを見た上で、日本の社会福祉・社会保障制度のあり方について、皆さんに「考えて」いただきます。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 日本の格差・貧困問題の概要(1)</p> <p>第3回 日本の格差・貧困問題の概要(2)</p> <p>第4回 ホームレス問題の諸相(1) ホームレス問題とは</p> <p>第5回 ホームレス問題の諸相(2) ホームレスとネットカフェ難民</p> <p>第6回 ホームレス問題の諸相(3) 90年代末のホームレス大量創出の背景</p> <p>第7回 ホームレス問題の諸相(4) 様々なホームレス支援</p> <p>第8回 ホームレス問題の諸相(5) 広島ホームレス問題</p> <p>第9回 低賃金・不安定雇用と失業(1) 非正規雇用の増加</p> <p>第10回 低賃金・不安定雇用と失業(2) 日雇い派遣</p> <p>第11回 低賃金・不安定雇用と失業(3) 製造業フリーター</p> <p>第12回 低賃金・不安定雇用と失業(4) 「派遣切り」問題</p> <p>第13回 低賃金・不安定雇用と失業(5) ワーキング・プア</p> <p>第14回 貧困対策(2) 日本の社会保障制度</p> <p>第15回 貧困対策(3) 人間らしい生活を保障するために</p> <p>第1回と第15回を除き、毎回小レポートを授業に課す。別途、期末レポートも有り。</p> <p>日本の貧困問題やその対策は今急速に状況が変化しておりますので、この授業進行計画は状況に応じて、順序や内容が変わることもあります。その点、ご容赦ください。</p>		
教科書・参考書等	テキストは特に指定せず、必要な資料などは適宜こちらで用意し配布します。		
授業で使用する メディア・機器等	映像資料(文字情報なし、またすべて日本語) 講義(板書多用)		
予習・復習への アドバイス	授業を受ける前、受けた後に考えてほしい問をあげておきます。 第1回 なし 第2回から第3回 現代日本の貧困問題は深刻といえるのかどうか？ 第4回から第8回 ホームレス個人が直面している困難とは何か？誰がホームレスになっているのか？日本で90年代末にホームレスが大量創出されたのはなぜか？ 第9回から第13回 非正規雇用の存在は社会問題といえるのか？誰が非正規労働者や失業者になっているのか？低賃金・不安定雇用、失業への効果的な政策的対応とは？ 第14回から第15回 ホームレス、非正規労働者、失業者、ワーキングプア層の共通点とは？現実を知った上で、あなたの日本社会への視点は変わったか？		
履修上の注意 受講条件等			
成績評価の基準等	小レポートの評価20%、期末レポートの評価80%とし、あわせて60%以上獲得することを単位認定の基準とします。		

メッセージ	
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。 なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しない場合があります。</p>	

年度	2014年度	開講部局	教養教育
講義コード	53015001	科目区分	パッケージ別科目
授業科目名	いのちを支える酵素[P3A,PN8]		
授業科目名 (フリガナ)	イノチヲササエルコウソ		
英文授業科目名	Enzymes supporting our life		
担当教員名	石田 敦彦		
担当教員名 (フリガナ)	イシダ アツヒコ		
研究室の場所		内線番号	
E-mailアドレス			
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期
曜日時限	火 1 時限, 2 時限	講義室	総K305
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義形式 パワーポイントを使用する。 適宜プリントを配布する。
単位	2	週時間	2
対象学生			
授業のキーワード	生命科学、酵素、化学反応、代謝、脳神経系、遺伝子工学、疾病、医薬品、バイオテクノロジー		
教職専門科目		教科専門科目	
関連するプログラム			
教養教育又は パッケージの中での この授業の位置づけ 学習の成果	第三パッケージ：生命・人間への接近 酵素という視点から、生命科学及びバイオテクノロジーの発展の歴史を学び、また現代人に必須の生命科学に関する知識・教養を身につける。		
授業の目標・概要等	我々の身体の中では生命を維持するために多種多様な化学反応が行われているが、触媒としてこれらの反応を制御し生命の営みを支えているものが、酵素と呼ばれる一群のタンパク質である。生命現象の仕組みを明らかにするためには、この酵素という生命を担う精巧な分子装置の性質やメカニズムを解明することが極めて重要であり、また酵素の異常が様々な病気の原因にもなっていることから、酵素の研究は医学的観点からも重要である。一方で酵素研究の成果は、酵素入り洗剤や各種医薬品・食品の開発・生産など、我々の暮らしを支える上でも大いに役立っている。この授業では、様々な実例を挙げながら酵素に焦点を当てて、発展著しい生命科学及びバイオテクノロジーについて理解を深めることを目標とする。		
授業計画	<p>第一回 ガイダンス 第二回 酵素とは？</p> <p>第三回 酵素反応で生かされている私たち 第四回 脳と酵素（１） 第五回 脳と酵素（２） 第六回 ビタミンと酵素 第七回 金属と酵素 第八回 病気と酵素（１） 第九回 病気と酵素（２） 第十回 遺伝子工学と酵素 第十一回 暮らしの中の酵素（１）</p> <p>第十二回 暮らしの中の酵素（２） 第十三回 エネルギーと酵素</p> <p>第十四回 酵素研究の現場から 第十五回 期末試験</p> <p>受講生の理解度を見ながら適宜、小テストを実施したり課題提出を求める場合がある。</p> <p>受講生の理解度に応じて講義の順序や内容を一部変更する場合がある。</p>		
教科書・参考書等	教科書は特に指定せず、適宜プリント等を配布する。また講義中に参考文献を指示することもある。更に勉強したい人は下記を参照されたい。 参考書：酵素－科学と工学（改訂版・虎谷哲夫ほか著・講談社）、ホートン生化学（第5版・Laurence A. Moranほか著；榎森康文ほか訳・東京化学同人）、標準看護学講座 生化学：人体の構造と機能（第6版・津田道雄著 金原出版）（何れも図書館にあり）		
授業で使用する メディア・機器等	パワーポイントのファイルを液晶プロジェクターで投影して講義する。		
予習・復習への アドバイス	各回の講義の内容を頭の中で理解し、受講生自らの言葉で説明づけられるようにすること。		

履修上の注意 受講条件等	特になし
成績評価の基準等	授業参加態度などの平常点（20%程度、ただし1/3以上休むと単位を認めない）・試験（80%程度）により評価する。
メッセージ	化学や生物学の履修経験がなくても理解できるよう講述する積もりですが、用語や概念が難解な場合は適宜、教官或いは学習支援室に質問・相談すること。
その他	【パッケージ別科目共通資料掲載場所（もみじTop内）： <a href="https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html">https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/package.html</a> 】
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。          回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。          なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	